道岳連だより

広報　NO.98
令和５年 10 月 25 日
北海道山岳連盟

ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｈｏｋｋａｉｄｏ－ｈａａ．ｎｅｔ／

第35回北海道山岳連盟交流登山会

2023.8.26-27 大雪山国立公園・十勝岳連峰

令和５年８月 26 日(土)と 27 日(日)の２日間にわたり、旭川山岳会と美瑛山岳会の主管により、白金野営場を会場に道内各地から山仲間 136 人が参加し「第 35 回北海道山岳連盟交流登山会」を開催しました。

26 日(土)の開会式や交流会に続き、山に関するクイズ大会で盛り上がり、27 日にアバレ川、十勝岳、美瑛岳、三段山、望岳台の５コースに分かれ、晴天のもとたくさんの汗をかきました。

おかげさまで道岳連役員や道岳連加盟山岳団体、各会員の皆様のご協力で事故無く、怪我無く登山会を閉会することができました。ありがとうございました。

北海道山岳連盟　会長　石 井　昭 彦

開会式後に参加者記念撮影

行事・各委員会事業報告

夏山講習会 Part1　5/28　濃昼山道

日　時　令和５年５月 28 日（日）
参加者　個人会員８名　山岳会４名　スタッフ２名
行　程　8：30　道の駅「あいろーど厚田」集合　開会式　登山準備　車乗り合せ
8：40　下山口の滝の沢側山道入口に車をデポ
8：45　濃昼側山道入口着　夏山登山装備・コンパスの使い方等講習　体操
9：00　登山開始 ⇒　10：25　濃昼峠
14：25　滝の沢側山道入口着　濃昼側山道に車を回収
14：50　道の駅「あいろーど厚田」解散

濃昼山道は厚田安瀬から濃昼までを結ぶ全長 11km の山道で､海岸線の国道が整備されるまでの地域住民の生活道路でした。探検家で北海道の名付け親の松浦武四郎もかつてこの山道を歩き、その足跡が今も残っています。今回は濃昼側から滝の沢口までを５時間 30 分かけてのゆったりトレッキングでした。

大ベテランから初心者まで幅広い参加者でしたが、夏山講習会に Ｐａｒｔ１に相応しく夏山日帰り装備と選び方の勉強をしてから出発しました。濃昼峠までは緩やかな登りで峠からは大小４箇所の沢筋を通過する下りとなっており、レイジンソウ、タニウツギ、ギンランなどの山野草が長い山道歩きを慰めてくれました。なかでもヤマシャクヤクの可憐で凜とした花姿には皆さんから「かわいい！初めて見た」と驚きの声があがりました。

山地や深山の林床に生育する野生のシャクヤクで、花の咲いている時期が３日程度と短いため今まで目に留まらなかったのでしょう。濃昼山道は山菜も豊富で、今回はワラビ、タケノコ、ウドを散策路の際で採取する事ができました。

以前、大沢の水量が多く、膝まで水があり流されないよう必死に歩いた経験があった為心配しましたが、今回は水量もさほどではなく倒木と石で簡易な橋もつくられていたので、安心して渡ることができました。設置してくれた方に感謝です。最後の滝の沢を過ぎもう少しで山道終了という林の中でキノコの群生を発見「春にキノコ？あれは何ダケ？食べられるの？」の疑問が飛び交う中で、参加者の一人が「あれはヌメリスギタケモドキ(ヤナギダケ)

濃昼山道

ヤマシャクヤク

で、とてもおいしいキノコです。」と断言してくれたので２名が収穫し持参… その後体調不良などの報告がないのでおいしく頂けたのでしょう。

生憎の曇り空で期待していた濃昼峠からの景色を楽しむ事はできませんでしたが、途中小雨がぱらつく状況でも無事予定通りの時間に下山できたのは皆様のお陰と感謝しております。また、下山後すぐに本降りの雨になったことを思うととてもラッキーでした。予定していた閉会式が雨のためにできずに挨拶のみで解散となったことがとても残念で申し訳なく思っています。また今回のように他の山道歩きの計画を実施できたらと思っていますので宜しくお願いいたします。

記 … 田中 清子

登攀研修会　　6/25　赤岩

開催日　令和５年６月２５日（日）
研修会場　赤岩東チムニー・四段テラス・ピナクルリッジ（マルチピッチ）
参加者　５名　スタッフ５名
研修内容　7：30　ガイダンス
8：00　リードの基本動作・セカンドビレイ
（ロック時解除の注意点）、マルチピッチの基本
スタッフ　石井 昭彦　加藤 陽子　塚本 圭一　伊藤 隆宏　本宮 敬士

「登攀研修に参加して」

赤岩へはここ数年、岩研修でしか通わなくなり、赤岩クライミングを楽しみに昨年に続き参加した。

晴れ、無風。既に赤岩駐車場には続々クライマーが集い、やはり人気の岩場を感じる。今回の研修生は私含め２名と少なく、他会員との交流（顔合わせ）も期待したが、逆にマンツーマン指導を受けるビッグチャンスでもあった。まずはロープワークの基本はマスターとのことで、演習はマルチピッチのフォロー（セカンド）の確保としてセルフビレイの取り方、ルベルソでのロックの効く確保器でフォローワーのロワリングなどより安全な方法を教わる。

その後マンツーマン指導で実演の中でビレイヤーとクライマーの動き、確保方法を丁寧に教えて頂く。

東のチムニー岩は、まず「ジェードルルート」をトップロープで基本動作のおさらい。初っ端なので不安と楽しみでドキドキだったが岩の頭から見下ろす赤岩海岸は青彩で積丹半島が望め、最高！

次は「チムニールート」のテラスからのラペリング。着地手前の大ハングを中吊り下降も無難にこなす。

参加者とスタッフ

３本目は「チムニールート」でテラスからのトップロープ。チムニーに入り過ぎずにスタンスを変え背中と足でズリズリと体を持ち上げて脱出ロワーダウン１フレーズを楽しむ、面白し。

東のチムニー岩は見晴らしも良く多彩なルートがありトップロープ、確保訓練などに最適である。
最後は４段テラスの「ノーマルルート」をリード&フォローということで２人ペア組になり、リードオフマンのステップに感心しながらルートファインディングに注視、本日の総集と言うことでリードに挑戦する。ホールド、スタンスを探りプロテクションセットと一動作ずつに集中して登り詰め、最初にならったセカンドの確保も一通りこなすことができ、ロープを回収して終える。
研修生２名と寂しかったが、講師が５名のマンツーマン指導となり、４ルートもの岩登りを楽しめ、随分と贅沢な研修であった。我が会でも沢登りが始まっており、少しでもクライミングワークを伝えれば・・と思う。
基本は変わらないが、クライミング技術、ギアは日々進化しているので研修生が増えることを願い、次回も参加して指導者のもとで習い、安全なクライミングを楽しみたいと思う。
余談ですが、サクランボの収穫期であったので、帰り道に少し高価であるが取れたての甘い“サクランボ”を家族にサプライズができ、研修に参加できたお陰です。　以上　Ａ・Ｔ

登攀研修会　　7/8-9　白老川三重の沢

開催日　令和５年７月８日（土）～９日（日）
会　場　ふぉれすと鉱山・白老川三重の沢
参加者　受講者９名・スタッフ５名
内　容　８日　13：30　ガイダンス　14：00　ロープワーク・懸垂下降要領・クライミング
　　９日　 8：30　沢での実践　14：00　解散

「沢・登攀研修に参加して」
７月８日（１日目)、現地に受付の１時間前に到着して受付を待ちましたが、30 分前くらいには既に受付をされるような準備ができていたように見受けられましたので、受付可能でしょうかとお聞きしたところ、快く受け付けをしていただきました。他の皆さんの受付もスムーズに済み、参加の皆さんが集合したところで、早速、今後のスケジュールの説明がありました。１日目の予定は２日目の山行ルートの説明、体育館及び外部の崖での懸垂下降、そして外部でのロープクライミングと盛りだくさんでした。
山行ルートの説明は、実際に明日の歩くルートの説明、どこでどのような訓練をするかを説明していただき、説明もわかりやすいものでした。お陰様でイメージが膨らみ、事前情報としては十分なものだったように思えます。
体育館での懸垂下降については、目の前で細かい説明があり、３班に別れて一人ずつ丁寧に手取足取り教えていただき、懸垂下降がどのような仕組みなのかを理解することができました。さらに外部の崖で２班に分かれて実際に樹木から支点を取り、体育館で教えていただいたことをもう一度繰り返し教えていただき、実際の現場でどのように懸垂下降をするのか、さらに理解を深めることができました。机上での通リいっぺんの説明と全員一度くらいの実技練習かなと想像していましたが、室内と外部で二回、実際の練習ができたことはとてもうれしい限りでした。初心者にはとにかく理論より実践という講師側の考えが伝わってきました。
皆さんの疲れ具合を見ながら適当に休憩時間を作っていただき、時間配分もよかったように思えます。その後外部のクライミングエリアで、ロープクライミングの練習をさせていただき、クライミングのイメージも膨らますことができました。このメニューは予定表にはなかったので、嬉しか

ったです。
　その後のスタッフの皆さまに作っていただいた美味しい食事をいただき、参加の皆様との交流、情報交換ができて、とても有意義な時間でした。なんと飲物も準備していただき、お陰様で美味しくいただきました。ありがとうございました。

　７月９日（２日目）朝から、またスタッフの皆さまに準備していただいた食事を平らげ、早速スタートしました。スタッフの皆さまから山行の随所で細かく山行の注意事項などを説明していただき、登りは三箇所の急登部分で補助ロープの準備をしていただき、登り方の説明をいただき、自信のない方にはロープを付けていただき、とても親切に参加の皆さんにご配慮いただき、安心して山行訓練をすることができました。

　三箇所も練習ができたので、ので、おかげ様で急登部分の登りの要領の理解を深めることができました。下りの急登部分で、一日目に練習した懸垂下降を実践での練習でとても勉強になりました。スタッフの皆様から親切に説明していただき懸垂下降の理解をさらに深めることができました。山行の最中にも理解が不足していると見られる参加者に気も細やかに声をかけていただき、通りいっぺんではなく参加されている本意でとてもお気遣いいただきありがとうございました。教える側の一生懸命さを感じ、教わる側の気持ちもさらに、ちゃんと覚えなければいけないという気持ちになり、相乗効果でとても良い講習だったと思います。　（Ｔ．Ｔ）

8/11　　2023「山の日」記念「親子登山会」

開催日　令和５年８月 11 日（山の日：祝日）
参加者　・一般参加者　小学生４名　幼児３名　保護者５名
　　・北海道山岳連盟　役員スタッフ５名　合計 17 名

　今年度の「ジュニア委員会」の事業は昨年度実施した、国民の祝日「山の日」の８月 11 日に旭岳を登る「親子登山会」を継続する形で開催する事になりました。
　道岳連加盟団体と個人会員のみなさんへお知らせすることを中心とするため、道岳連ホームページでの募集する形をとらせていただきました。8 月は台風発生に伴う前線の影響を受け、日々天候が変化し、また高温の影響を受け午後には「にわか雨」が降る毎日の中、週間天気予報に一喜一憂しながら準備をすすめてまいりました。
　当日は、朝は予報通り晴天でした。心配だったのは気温が 30℃を超える予報が出ていたため

「にわか雨」に当ることだけ心配しながら登山を行いました。

午前９時 15 分のロープウェイに乗車、登山を開始し９時 50 分に姿見の池まで全員で登ってきました。今回は３組の親子のペースに合わせる形でスタッフを配置して登山をすすめていきました。３歳から小学校５年生まで、お子さんの体力や体調に応じてゆっくりと休憩を取りながらそれぞれ旭岳頂上に近づきながら歩みをすすめて行きました。

正午に８合目まで全員が登ったところで、旭岳山頂にしっかりとした雲がかかりました。

周辺の空には黒い雲も見られ、風も少し強くなってきました。

「頂上」まであと少しという気持ちと行きたい気持ちが伝わる中で、心苦しい気持ちをみなさんに打ち明けることになってしまいました。足回りの装備と９合目からのコースを考え安全と安心を維持することを最優先にして、山頂へ行くことは我慢することを理解してもらって、無理のない所で８合目を「頂上」にして砂礫の登山道をゆっくりと安全に下山することに理解いただいて下山をしていきました。

ゆっくりと安全に不安定な砂礫の急な下りを頑張って往復５時間以上歩きました。14 時 30 分に姿見駅に下山したときに見せてくれた笑顔は本当に素敵でした。みなさんが怪我なく下山をするという当然のことを素直に喜んで安心することが、登山の楽しさや喜びの基本なのだと今回も改めて確認する機会となりました。

北海道の最高峰の旭岳はやはり標高２２９１ｍという、本州３０００ｍ級の山だということをつくづく実感させられます。標高差とコースタイム、登山道の状況、当日の天候そして参加者の年齢と体調、個人装備も十分把握しながら事業を行う難しさを痛感しています。旭岳ロープウェイに午前７時に乗車して登山しないと難しいな… でもそれは参加する人に集まってもらうには負担だよな… いろいろな視点から考えると課題はたくさんありました。

これからも「登山」を通して山の楽しさと安全の大切さを伝えていく役割を推進することの難しさを感じることができました。参加していただいた方に感謝します。ありがとうございました。

文責： ジュニア委員長　高 見　直 広

アルパインクライミング・レベルアップ研修会　①

8/19　三峰山沢　（九重の滝　華雲の滝）

北海道山岳連盟アルパインクライミング・レベルアップ研修会　①

沢登り：三峰山沢右股～登山道～三峰山沢左股

令和５年８月 19 日　リーダー石井　参加者； Ｎ・Ｍ　Ｋ・Ｈ
　行動概要：7：40 駐車場～8：20 砂防ダムより入渓 9：30 九重の滝～ 10：15 華雲の滝
　　～ 12：00 登山道合流～ 16：15 駐車場

　沢の水が飲めないと言う事を駐車場で知り、急遽ありったけの水 1.8Ｌを詰めて出発。懸垂下降やハーケン登りもないという事なので、ハンマーバイルとお助け紐程度の装備で出発。
　林道を小一時間詰めて最後の砂防ダムを超えたところがほぼ右股と左股の合流地点になっており、そこから入渓。入渓後間もなく九重の滝が現れ、スラブ滝で一旦滑り出したら止まらない長い滝だった。一歩一歩細心の注意を払いながら登る。渓相はバリエーションに富んでおり、ナメありゴロ・ガレあり、スラブありで楽しい。大きな滝は巻き道が明瞭についており、概ね快調に詰める。沢が枯れた所から間もなく夏道の雰囲気があり「楽勝だと」とこの時点では思ったが大間違いだった。
　そこから１時間余り夏道まで藪漕ぎなのだが、苦手なハイマツ漕ぎとなり大いに苦戦する。今年３月に左足を骨折し手術以来厳しい藪漕ぎをしてなかったこと、そもそも藪漕ぎに慣れてない事もありメンバーを随分待たせてしまう。藪を抜け登山道に出たところで既に疲労困憊。
　山頂どころか沢の下りも自信がなくなる。とりあえず夏道で下山を開始したが、元々可動域が悪く痛みも出やすい股関節の痛みも強くなり、途中で痛み止めを飲む。左股と登山道の合流点で意を決して沢を下ることにしたが、この後の左股も大きな滝の巻き道がまたしてもハイマツの藪漕ぎになり、疲労困憊のところに追い打ちをかけるダメージを負うこととなり大いに苦労した。もうしばらくハイマツ漕ぎはしたくないなと思いながらの帰宅となった。
　沢登りとしても藪漕ぎとしても決して難易度の高いコースではなかったかと思うが、この程度のコースで悲鳴をあげているようではこの先が思いやられるなと心配になりつつ、もっと鍛えて１年間のレベルアップ研修を無事完遂したいと思いました。大変勉強になりました。

（報告者　Ｋ・Ｈ）

九重の滝

華雲の滝

アルパインクライミング・レベルアップ研修会　②
9/9　石垣山

北海道山岳連盟アルパインクライミング・レベルアップ研修会 ②
石垣山　（クラッククライミング）
令和５年９月９日　リーダー　石井　参加者　Ｎ・Ｍ　Ｏ・Ｔ　Ｋ・Ｈ
行動概要　8：00 石垣山林道終点駐車場 ～8：15 重畳下岩場取付～ 15：30 駐車場
行動記録

当日までに予習をしたくて今年何度か石垣山山行計画を立てていたが、ことごとく悪天候で中止となり、今年初のクライミングとなった。本日の天候は申し分なさそう。前日までの雨もなく岩は乾いている。

８時に駐車場を出発し短いアプローチを経て頂上下の岩場へ。ルートを端から眺め、１本目は「オードブル 5.9 （Free Ｆan トポでは 5.8）」から取り付くこととなった。出足左のクラックから右側のクラックに移り、足のスタンスがないところをフットジャムするところからが難しく、また中間部のレイバック気味ムーブも力が吸い取られてしまい難しい。

石井さんにトップロープをかけていただき、「自分も次はリードだ」 と意気込んでトップロープにリードロープも結んで模擬リード。ところが出足の左クラックで１ピン目かけるのがやっとで、２ピン目とてもかけられず、なんとトップトップアウトもできずに終了。途中で悩みすぎて力が入りヨレてしまいました。

２回目はリードの欲は捨ててトップロープでトップアウトを狙う。先ほど苦労した中間部を何とか抜けてバンドを超えるとすんなりトップアウトできた。バンドが中心のクラックだが、フェイスも拾いつつ登るルートで以前はバンドジャムも不安定なため登り切れなかったが、今回は２回のトライでトップアウトできて少し成長を感じた。

２本目は「らぶ衛門 5.10（FF5.8）オフィズスの一本出足から悩ましく、小さな足のスタンスを左足で拾って立ち上がりそこから右足を上げて思い切り左のハンドを逆手で高く取りに行くとぐっと持ち上がる。そこで手こずると中間部でヨレる。１回目は中間部足が決められず敗退。

らぶ衛門

２回目は出足に１回目以上に手間取って余計な力を使ってしまい、オフィズが処理できずにまた敗退。くやしいが解決方法が見つからない。石井さんが再度上がるのを見てオフィズスはやっぱり泥臭くズリズリちょっとずつ上げるしかないのだと悟り、右腕はチキンウイング、右足は膝と踵で突っ張りながら持ち上げて３回目で何とかトップアウト。下は左半身、中間部から上は右半身をクラックに差し込みながら体を上げる面白いルートだと思った。オフィズスは慣れたら体の接地面積が大きいためより安定するのだろうな、と思いつつ「安定」にはほど遠い自分の技術の低さに少しがっかりもした。

私はクラッククライミングを初めて経験してから今年で３シーズン目。今回のクライミングでは

「リードができるぞ」という感覚を得ることはできなかった。まだまだトップロープでクラックの基本的なムーブを体に叩き込む時間が必要だと思った。クラッククライミングもトップロープで練習するには上手な人と一緒に行くか方法はなく、今回の研修でも石井Ｌに経験値を上げていただけたと感じた。とは言っても全体を通じて達成感よりもクラックに「やられた感」が強く、成長は感じつつも（特にオフィズス）なんとなく下を向きたくなるような気持ちで石垣山を後にした。

（報告者：Ｋ・Ｈ）

アルパインクライミング・レベルアップ研修会 ③
9/10　荒井川　（電気の沢）

北海道山岳連盟アルパインクライミング・レベルップ研修会　③
沢登り：荒井川(通称：電気の沢)
令和５年９月 10 日：リーダー石井　参加者Ｋ・Ｈ
行動概要：6：00 駐車場 6：10 入渓 6：30 Ｆ1
9：30 ゴルジュ終了 10：10 Ｃ900 作業道
11：10 駐車場

美しいゴルジュをへつる石井Ｌ

行動記録
ぜんかいの私の藪漕ぎ苦労を見て石井Ｌにご配慮いただき、藪漕ぎがなく沢難度の高い「電気の沢」に計画を変更していただいた。前日のメンバーの一人が急遽体調不良で不参加となったので、メンバーは私一人。マンツーマンの石井塾となった。
　石井Ｌも前泊と判明したので出発時間を６時に変更、朝に気温が低くなるのではないかと危惧したが朝から程よい気温で 20 度ぐらいだった。

　銀河の滝への国道分岐からすぐのトンネル脇に駐車そこから国道を渡り荒井川の砂防堰堤右岸の草付きを登り林道へ。10 分程で入渓、沢筋は明瞭で股も顕著なのもなく迷い箇所なしだが、一つ一つの岩が大きく乗り越しに苦労しながら遡行した。20 分余りでＦ1。動画などでも見ていたが実際に見てみると全く手掛かりがない滝で、高さは５ｍ程だがカムをかけるところもハーケンを打てるところもないため、登るならフリーになるとのこと。何度か死亡事故が起きる有名な滝壺で、確かに滝底に向って渦を巻いている。一度引きずり込まれたら滝の壁を蹴って下流に逃げるのがコツだと石井Ｌから言われ、絶対そんなリスクのある滝はフリーでは登れないと思い結局沢を下り左岸から巻く、最後は３ｍほど懸垂して滝の上流に出た。
　全体的にはゴジユル地形で、へツリや突っ張りが多い渓相だった。股関節の硬い自分には苦手な突っ張り、苔生した岩で手掛かりがなく、良いホールドもない。掴める岩も逆層の脆い岩相質で時々掴んだ岩が剥がれるためヒヤヒヤしながらへつる。石井Ｌでも足がズリズリと滑りながら時にはドボンしながら進んでいる。自分もへつれない箇所が多く、乗り越せない岩も度々出てく

るため何度となくロープやお助け紐を出していただく始末。時間もどんどん経過し、なかなか予定通り進めなかった。予定３時間のはずが３時間半もかかってゴルジュを突破した。

バイルが必要と事前に伺っており、前回教えていただいた通りリーシュをつけてのバイルへつりを初めて体験できた。苔生した岩にはバイルのかかる場所がないものが多く、小さな凹みは誰かがバイルをかけようとした苦労のあとかもしれないと思いながら凹みにそっとバイルをかけて渡った。冬のアルパインでも必要な技術だと思った。へつりが多い沢ではフェルト底よりラバー底の方が遡行しやすそうだと思われた。今後導入してみたいと思う。

へつりも結構高くへつる箇所があったが､下部で落ちてみると意外と浅いゴルジュも多かった。へつりが怖くてできない場所も多く必要以上に時間がかかってしまったので、もっと積極的に水線突破を狙って素早く行動した方が良いと感じた。今回のゴルジュは高くへつって落ちたらかなり危ない怪我になりそう深さだと思われ、場所によってゴルジュの水深を見極めたり確かめたりする重要性を感じた。

Ｃ900 で左股が出てくるので、これを登っていくと 10 分弱で作業道に出る。作業道の最後の 400mほどは鹿道のような急斜面で、沢靴では滑って大変だった。チェーンスパイク持参でも良かったかもしれない。

沢登りはもともと得意でもないが、今日もまた石井塾でたっぷりと経験値を上げさせてもらったことに感謝しつつ帰路についた。　　（報告：Ｋ・Ｈ）

夏山講習会 Part3　　9/22　芽室岳

９月９日から 10 日にかけ、普及委員会夏山講習会 Part３芽室岳登山を実施しました。８日参加者は８名スタッフ３名合せて 12 名、３時には清水少年自然の家に集合しました。

清水少年自然の家は古い小学校跡ですが、床はワックスがけでピカピカに磨かれ、気持ちの良い施設になっていました。

開講式のあと芽室岳の地図を題材に、地図の見方とコンパスの合わせ方を勉強、地図は広範囲に認識でき、行くべき山や登山道の方向がわかりやすい。さらにスマホの利用で現在地と高度の確認など地図とスマホの組み合わせで道に迷わない方法について勉強しました。

続いてダニによる感染症について、道内に多いマダニによるライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎、など病原体により重症化する場合あり、刺されたときは皮膚科などで治療することが必要、春から夏にかけササの中を歩くときは肌を露出しないよう注意が必要。

夕方には雨となりましたが、個人で用意した食事を研修室に持ち寄り、用意した豚汁とビールで乾杯、山の感動秘話と羆に遭遇した話で盛り上がり、楽しい交流会となりました。

10 日は 6 時 30 分に食事と掃除を済ませ、7 時 10 分には登山口から芽室山の会 20 名と登山開始、昨夜の雨にも関わらす渡渉の沢は増水もなく、岩の上を難なく渡る。登山道は出尾根上の根曲り廊下をひたすら登る。所々掘れた道は昨夜の雨で滑る。さすがに 615mから 1741mまで 標高差 1100m登るのはきつく長ミストで木葉についたしずくが足を濡らす。途中何度も短い休憩を取りながらペースを

調整し1690m地点の尾根に着いた時、雲が晴れ、皆元気をとり戻す。

さらにピークを二つ超え辿り着く。頂上では暖かい日が差し先に付いていた芽室山の会と全員が入り写真を撮り、それぞれ岩に腰掛け昼食をとる。暖かい日射しに下るのがもったいない。

12時40分に下山開始、尾根から西側の西芽室の頂上にかけ雲が晴れ、歓声が上がった。帰りは滑る箇所があり、ゆっくり歩きながら後を見ると突然頭が見えなくなる。転ぶ人続出、油断すると自分も空を見ることに。リュックに泥が付く。15時30分、下りに時間がかかったが何とか無事に下山。今回は、道のりに長く時間を感じた人も多かったが、チームワークがよく、途中話し声が途切れることはなかった。全員で頂上に立つ喜びを分かち合えました。

スタッフ 齊 藤　邦 明

令和5年度特別国民体育大会（燃ゆる感動かごしま国体）
10/8-10　スポーツクライミング競技

燃ゆる感動かごしま国体を振り返って

１ 特別国体

令和２年（2020）に開催される予定の第75回鹿児島国体が新型コロナウィルス蔓延のため延期となり、今年、特別国体として開催された。

出場選手を決める北海道ブロック予選会は､美唄市体育センターにおいて令和５年７月22日にリード競技、23日にボルダー競技を行った。リード、ボルダリングの２競技において上位２名が正選手、３番手が補欠選手に指定された。成年男子の杉本 怜選手はトップアスリート枠で正選手に選ばれた。

２ 入賞ならず

各種別の種目毎の成績は次のとおり

成年男子（杉 本　怜、坂本　大河）　リード16位、ボルダリング19位
成年女子（吉田 ゆな、上原子音羽）　リード17位、ボルダリング　９位
少年男子（齋藤 羚太、若宮　楽空）　リード15位、ボルダリング11位
少年女子（酒井 雪羽、小鍛冶菜花）　リード18位、ボルダリング17位

成年男子は、トップアスリートとして実績のある杉本 怜と2021年ユースボルダリングのジュニア部門で日本チャンピオンになった坂本大河が初めてチームを組んで戦った。

リード競技は成年と少年男女とも同じルートを使って登った。これは少年男女の実力が成年と同レベルになっていることを表している。成年男子の入賞チームは、どちらかの選手が完登している状況だったので、杉本・坂本チームの入賞は難しかった。ボルダー競技ではチームで４完６Ｚだった。決勝に進むには５完７Ｚが必要で、もう一歩及ばなかった。

成年女子はボルダー競技で９位だった。これが今年の北海道チームの最高順位だった。チームは昨年度、少年女子リード競技で８位入賞した吉田ゆな、上原子音羽の二人である。ボルダー競技で３完５Ｚ、入賞８位チームとの差が１Ｚと、あとはトライ数の差だったので惜しいところだった。二人とも成年女子となり、今年の悔しさを来年に向けての頑張りにしてほしい。

北海道選手団一同

少年男子は昨年の栃木国体にも出場した齋藤羚太と初出場の若宮楽空がチームを組んで戦った。ボルダー競技はチームで４完５Ｚで 11 位だった。

８位入賞チームが４完６Ｚだったので、こちらももう一歩だった。

少年女子は初出場の酒井雪羽と小鍛冶菜花チームを組んで戦ったが、他県の選手が強く、成績は振るわなかった。

特に、リード競技は北海道における練習施設も少なくなかなか強い選手が育たず、入賞には遠い成績であった。

文責　成年男子監督　石井 昭彦

第１回　理事会　　10/15　　札幌エルプラザ

令和５年度第１回理事会は、令和５年 10 月 15 日(日)札幌エルプラザ４階中会議室において理事 29 名の出席(出席 13 名　委任状 16 名)で開催された。

石井会長は冒頭挨拶で今年度はコロナ感染症が５類になったこともあり、いろいろな活動が動き始めた。各委員会事業に加え、大雪山では全道交流登山会や高校総体も開催された。中央団体とは毎月の会議の中でＳＣの予選会に費用がかかる等、様々な課題をどう改善するか話し合っていると述べた。

議事に入り第１号議案　令和５年度前期を振り返って、第２号議案 令和５年前期事業報告、第３号議案 令和５年度後期事業予定が明田理事長及び各委員会委員長より報告され､会長あいさつにあった中央団体の課題に関しての質問があったほかの質疑はなく提案どおり承認された。

第４号議案は道岳連への新規加盟について、南知床山岳会より加盟申請があり来年度の総会で承認する予定となった。

第５号議案のその他は、令和６年千葉県で開催予定の全日登山大会開催説明。小野名誉会長が文化スポーツ庁から令和５年度生涯スポーツ功労者表彰受賞、10/13 東京で表彰式が執り行われた。

高体連小池理事、小野名誉会長、山納競技委員長から全国高校総体の報告があり、役員総勢 600 名で無事競技を終えたこと、今後競技結果をＨＰにアップすることを報告した。

議事終了後は、出席理事からの近況報告を行ない、各会の活動状況及び各山岳エリアの情報などを交換して 15 時 40 分に散会した。

今後の諸行事(予定)

令和５年度　北海道山岳連盟登山総合研修会

期 日　令和５年 11 月４日(土)～5 日(日)
会 場　道立青少年体験活動支援施設　　ネイパル森
　　〒 049-2141　茅部郡森町駒ヶ岳 657-15　　☎ 01374-5-2110
参加料　7,000 円

第 22 回スポーツクライミング北海道選手権大会

リード　　期　日　令和５年 10 月９日(日)　　会 場　北海道科学大学体育館
ボルダー　　期　日　令和５年 11 月 12 日(日)　会 場　グラビティリサーチ札幌

ＴＯＺＡＮ Ｆes.2024 in ＣＨＩＢＡ　(第 59 回 全日本登山大会千葉大会)

期　日　2024 年２月 17 日(土)～18 日(日)
主　催　公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
会　場　千葉県富津市　鋸南町　鴨川市　南房総市
　　宿泊地　サンセットブリーズ保田
募集人員　協会員 100 名　一般参加者　100 名（登山以外は自由参加）
参加費　2/16 から参加　36,000 円　　2/17 から参加　25,000 円
申込締切り　令和６年（2024 年）１月 15 日

道岳連だより　北海道山岳連盟広報　№９８　令和５年 10 月 25 日発行
発　行　北海道山岳連盟　　事務所　札幌市厚別区厚別北１条４丁目 1-4-206
発行責任者　石井　昭彦　　編集担当(総務)　内 藤 美佐雄